

中小企業景気動向調査

(2021年10~12月調査)

目次

全業種業況概要(業況~設備の状況) 1
 業種別業況の推移 3
 製造業/卸売業/小売業 4
 建設業/サービス業/不動産業 5
 特別調査(2022年(令和4年)の経営見通し) 6

●調査方法

この調査は中小企業を対象に取引先に出向き、聞きとりしたものです。

●調査時点

2021年10月初旬

●調査対象時期

2021年10月~12月実績及び
2022年1月~3月予想

●調査対象企業の業種別及び有効回答数

	企業数	構成比(%)	有効回答数	回答率(%)
製造業	56	28.0	54	96.4
卸売業	21	10.5	16	76.2
小売業	42	21.0	35	83.3
建設業	32	16.0	29	90.6
サービス業	32	16.0	31	96.9
不動産業	17	8.5	13	76.5
合計	200	100.0	178	89.0

分析方法

D.I (ディフュージョン・インデックス)

A=良い(増加・上昇・過剰)
 B=ややA
 C=普通(変わらず・適正) $D.I=A \cdot B - D \cdot E$
 D=ややE
 E=悪い(減少・下降・不足)

この調査の中では傾向を見る方法の一つとしてD.Iを中心として分析したもので、D.IはDiffusion Index(拡張指数)の略です。

企業が景況判断・予想を5段階(A.B.C.D.E)で行います。不変部分(C)を除いて増加(AもしくはB)したとする企業が全体に占める構成比と減少(DもしくはE)したとする企業の構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトル(方向線)の傾向を見る方法です。

概況

業況・売上額・収益、ともに改善

金沢信用金庫が行った中小企業178社の景気動向調査(調査回答先:金沢市中心の業務区域内200社・回答率89.0%)の概況は次のとおりです。

今期の全産業ベースの業況判断DI(「良い」・「やや良い」-「悪い」・「やや悪い」の構成比、以下同じ)は△12.4(前期△36.1)と23.7%改善した。

業種別では、卸売業が43.8(前期△22.2)と66.0%大きく改善、ほか不動産業が7.7(前期△21.4)と29.1%、小売業が△34.3(前期

△62.9)と28.6%、製造業は△7.4(前期△34.5)と27.1%、サービス業が△32.3(前期△48.4)と16.1%改善した。建設業は△13.8(前期△10.0)と3.8%悪化した。全産業ベースでの来期予想DIは△16.9と4.5%の悪化を予想している。

また、全産業ベースの売上額判断DIは11.2(前期△5.5)と16.7%改善、収益判断DIも2.2(前期△12.6)と14.8%改善した。来期予想では、売上額判断DIが△19.1と30.3%の悪化、収益判断DIは△19.7と21.9%の悪化を予想

している。

今回の調査で経営上の問題点として最も多かった回答は、「売上の停滞・減少」(全回答中44.4%)で、以下「原材料高」(全回答中32.0%)、「人手不足」(全回答中25.8%)であった。また、当面の重点経営施策としては「経費の削減」(全回答中48.9%)との回答が最も多く、以下「販路を広げる」(全回答中36.5%)、「人材を確保する」(全回答中30.3%)という結果となった。

(注)2021年7~9月を前期、10~12月を今期、2022年1~3月を来期という。以下同じ。

景況天気図

(この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しました。)

好調 ← ☀️ ☁️ ☔️ ☂️ → 低調

業種名	時期	2020年(令和2年)				2021年(令和3年)				見通し 2022年(令和4年)
		1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月
総 合		☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☁️	☔️
製 造 業		☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☁️	☁️
卸 売 業		☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☀️	☁️
小 売 業		☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️
建 設 業		☁️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☁️	☁️	☁️
サ ー ビ ス 業		☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️
不 動 産 業		☁️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️	☁️	☁️

全業種

	2020年(令和2年)				2021年(令和3年)				見通し 2022年(令和4年)
	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	
業況	△34.4	△64.4	△68.4	△49.5	△44.3	△48.4	△36.1	△12.4	△16.9
売上額	△38.6	△61.3	△26.8	△7.4	△38.8	△18.1	△5.5	11.2	△19.1
受注残	△35.0	△48.2	△36.9	△5.9	△29.4	0.0	3.5	18.1	△12.0
収益	△37.6	△60.7	△33.2	△10.1	△36.1	△20.3	△12.6	2.2	△19.7
販売価格	△3.2	△16.2	△1.6	1.6	△3.3	△3.3	5.5	13.5	3.9
原材料価格	10.1	△1.6	12.1	11.2	16.9	31.9	40.4	51.7	41.0
在庫	5.7	15.6	8.1	6.3	6.5	9.2	4.6	△5.4	△6.1
資金繰り	△18.5	△40.3	△16.8	△8.0	△10.4	△17.0	△12.0	△12.9	△10.7
雇用(人手)	△27.5	12.0	6.8	△11.2	△3.8	△2.2	△14.8	△25.8	△22.5
設備状況	△11.0	△5.7	△7.5	△12.2	△11.4	△11.4	△13.0	△17.0	△15.8

設備投資動向

設備投資は、不動産業を除いた165社の動向です。

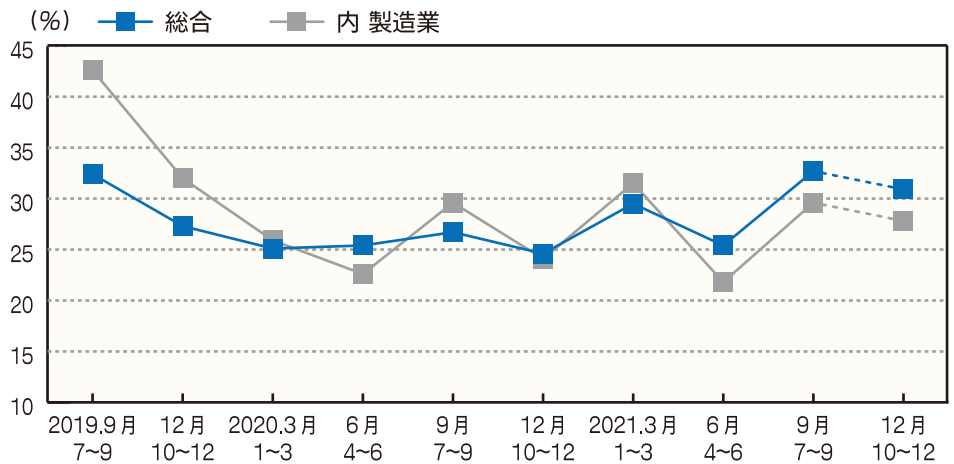
● 10~12月の設備投資実施状況

		有	無
		総合	数 54
	%	32.7	67.3
(内 製造業)	数	16	38
	%	29.6	70.4

(来期見通し)

		有	無
		総合	数 51
	%	30.9	69.1
(内 製造業)	数	15	39
	%	27.8	72.2

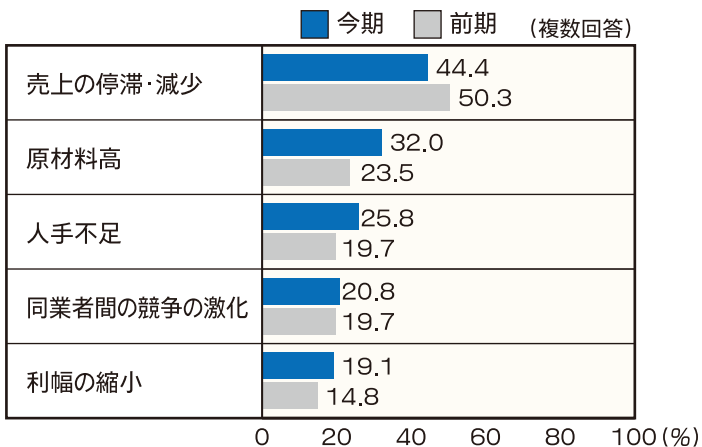
● 設備投資実施(予定)割合



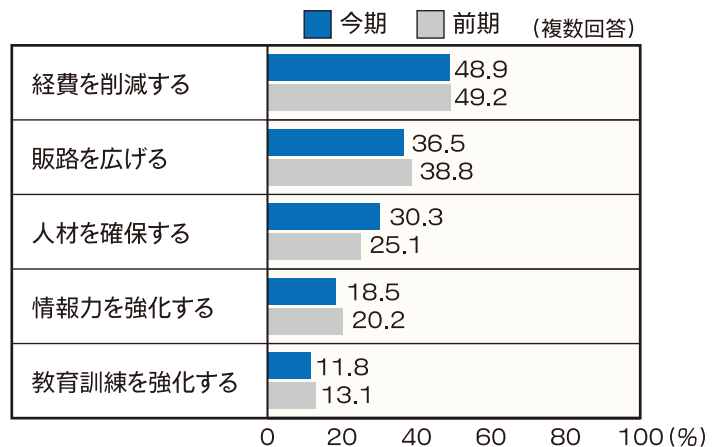
● 10~12月に実施した設備投資の内訳 (複数回答)

		事業用 土地・建物	機械・設備の 新增設	機械・設備の 更改	事務機器	車両	その他
		総合	%	3.6	7.3	11.5	6.1
(内 製造業)	%	1.9	11.1	18.5	3.7	14.8	0.0

経営上の問題点



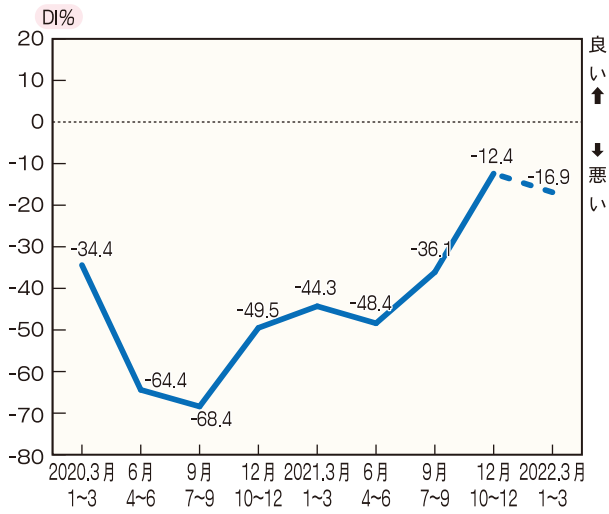
重点経営施策



全業種

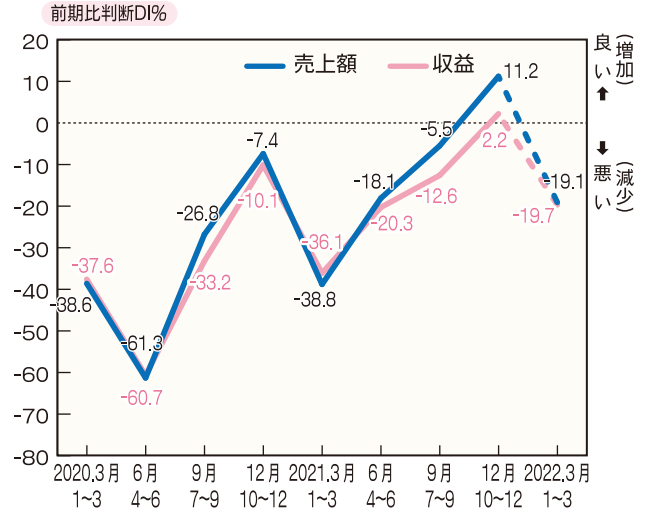
業況

前期から23.7%改善
来期は4.5%の悪化を予想



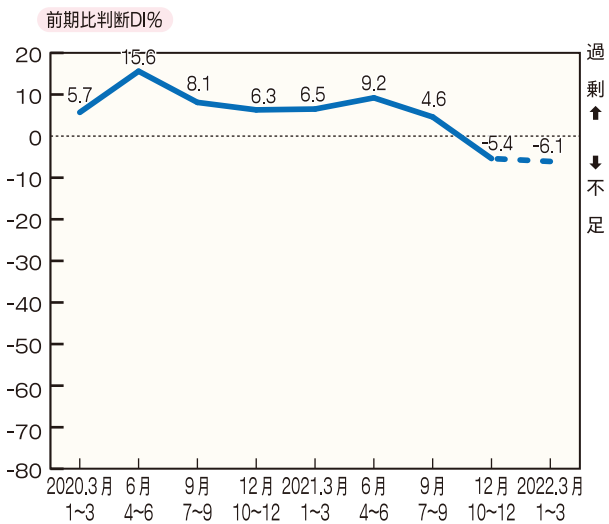
売上額・収益

売上額・収益はともに改善



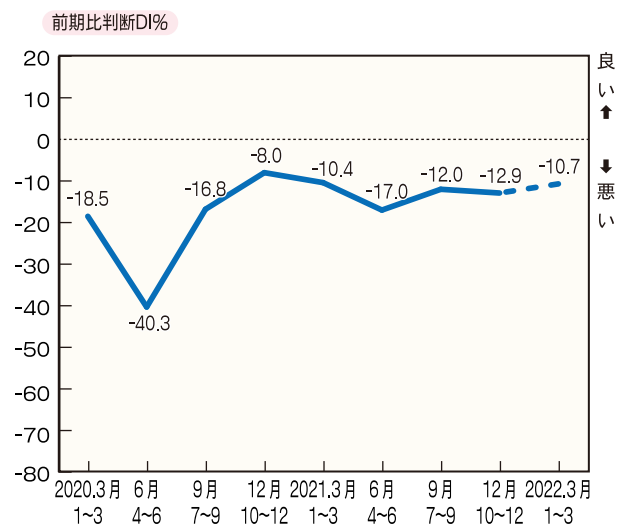
在庫

今期△5.4 (前期4.6)と
不足に転じる



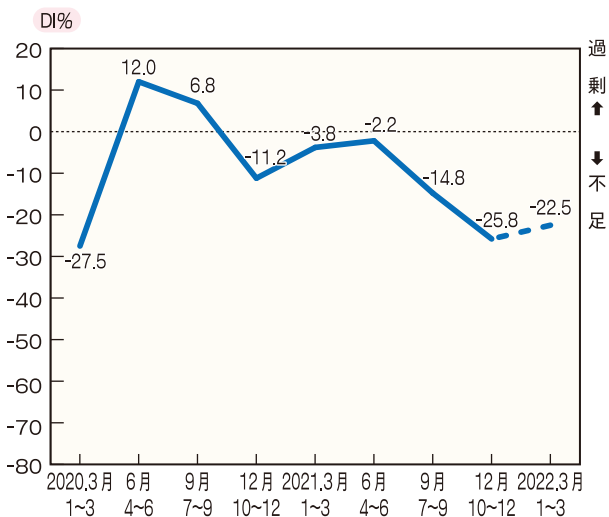
資金繰り

△12.9 (前期△12.0)と
ほぼ横ばい



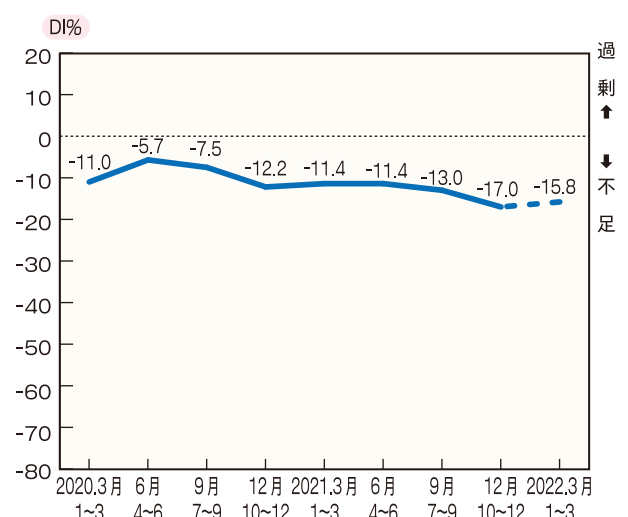
雇用

今期△25.8 (前期△14.8)と
不足感が増加



設備の状況

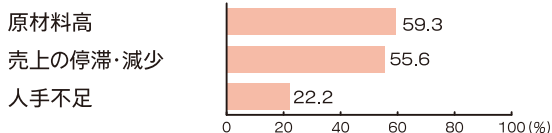
△17.0 (前期△13.0)と
4.0%減少



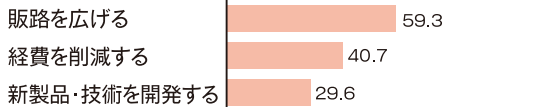
製造業

業況・売上額・収益
ともに改善

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



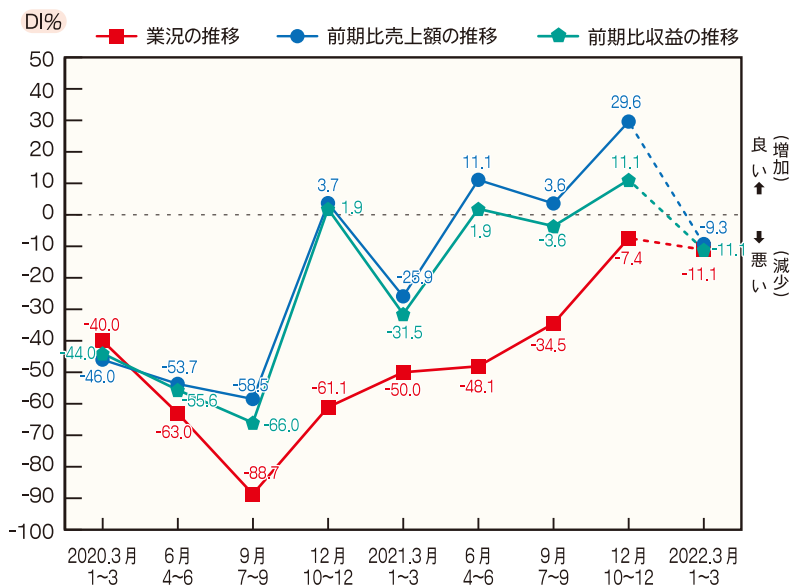
◆ 昨年同時期(2020年10~12月)に比した動き

売上額	25.9
収益	20.4

◆ 借入金の動き

借入の実施	25.9%
借入の予定	27.8%

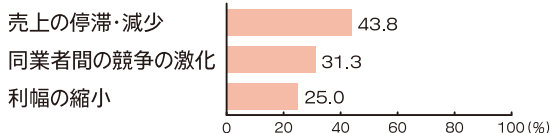
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



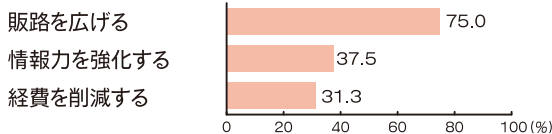
卸売業

業況が大きく改善
売上額・収益も改善

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



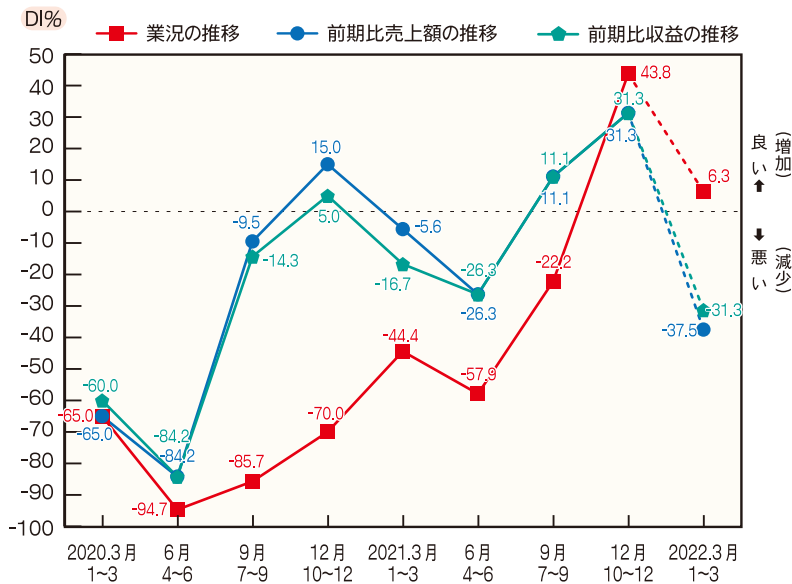
◆ 昨年同時期(2020年10~12月)に比した動き

売上額	50.0
収益	31.3
販売価格	56.3

◆ 借入金の動き

借入の実施	18.8%
借入の予定	18.8%

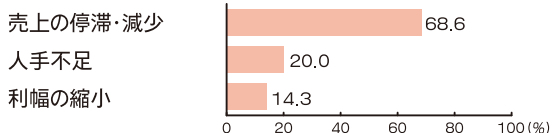
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



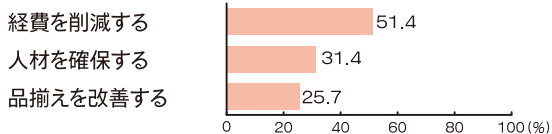
小売業

業況・売上額・収益
ともに改善

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



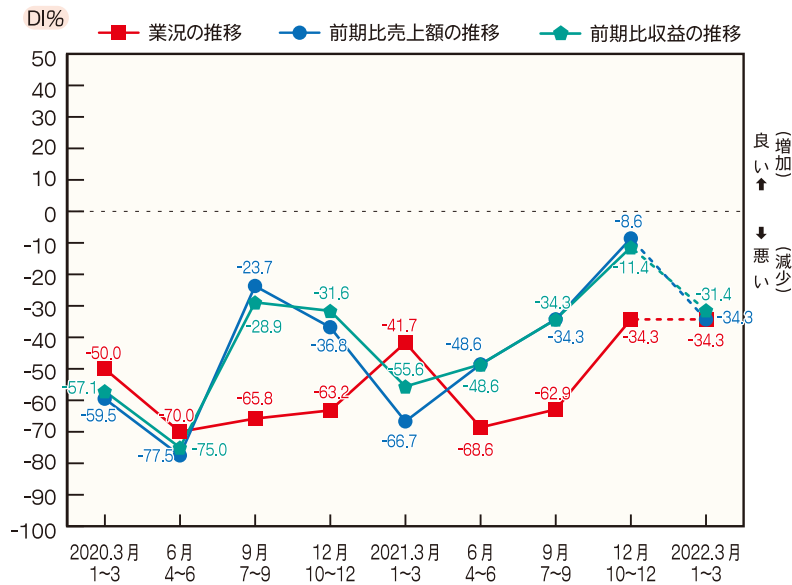
◆ 昨年同時期(2020年10~12月)に比した動き

売上額	△37.1
収益	△20.0
販売価格	0.0

◆ 借入金の動き

借入の実施	25.7%
借入の予定	25.7%

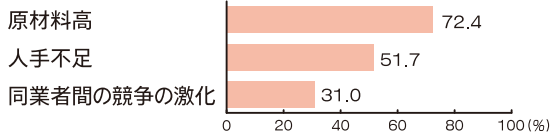
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



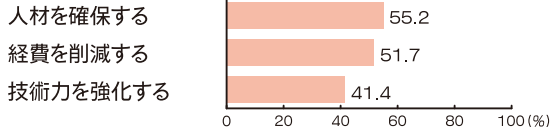
建設業

業況は3.8ポイント悪化
売上額・収益は改善

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



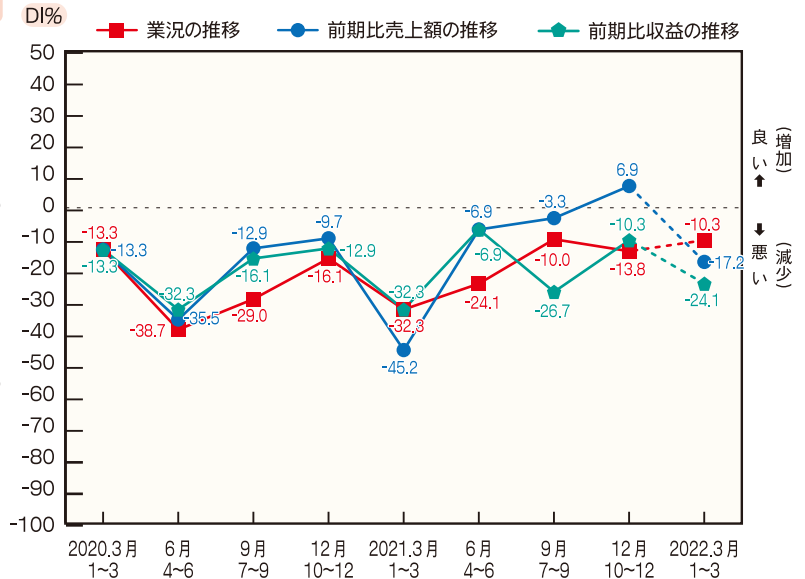
◆ 昨年同時期(2020年10~12月)に比した動き

売上額	△6.9
収益	△10.3

◆ 借入金の動き

借入の実施	27.6%
借入の予定	20.7%

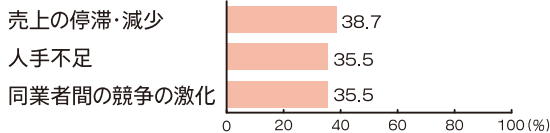
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



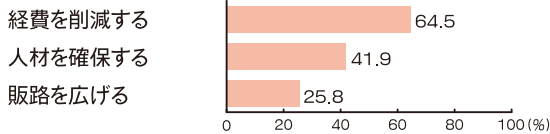
サービス業

業況は改善
売上額・収益は悪化

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



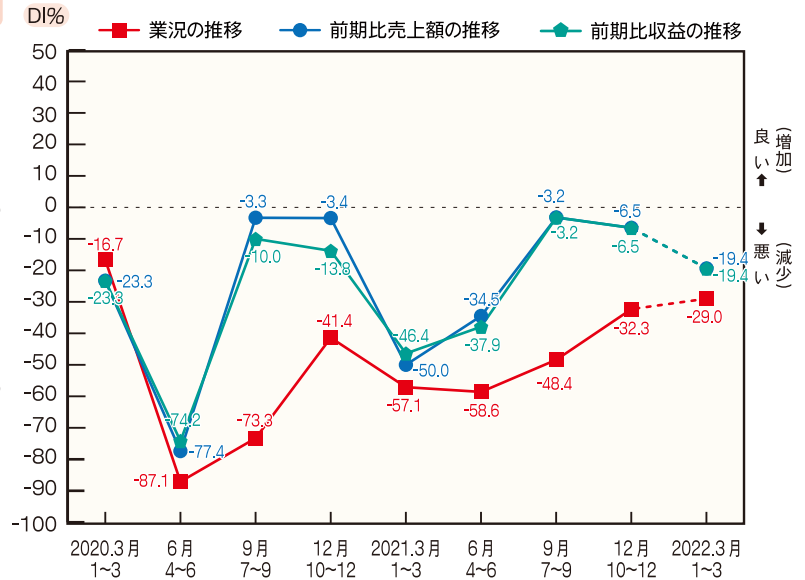
◆ 昨年同時期(2020年10~12月)に比した動き

売上額	9.7
収益	12.9

◆ 借入金の動き

借入の実施	16.1%
借入の予定	22.6%

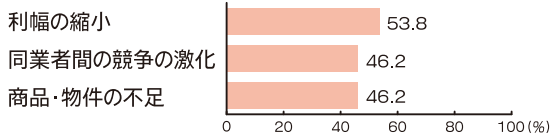
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



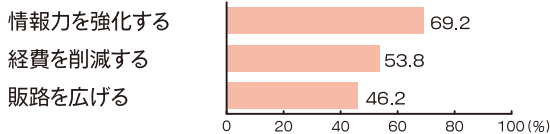
不動産業

業況・売上額・収益
ともに改善

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



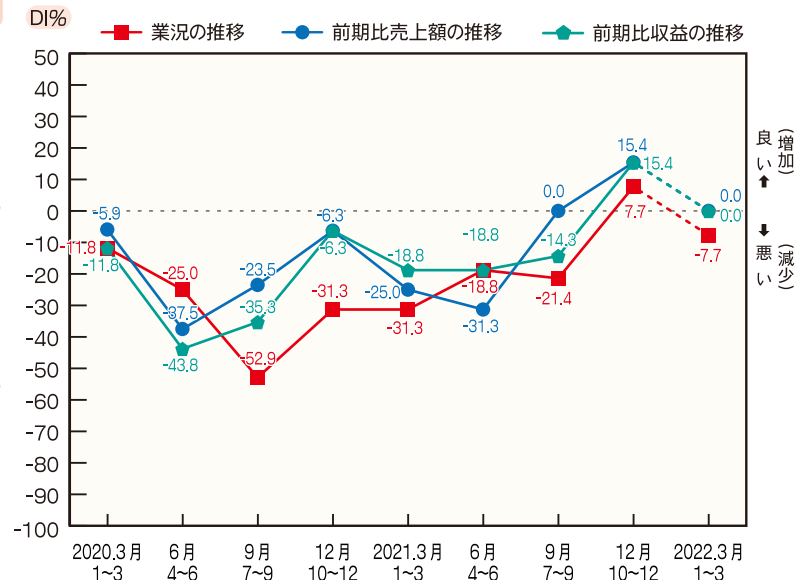
◆ 昨年同時期(2020年10~12月)に比した動き

売上額	7.7
収益	15.4

◆ 借入金の動き

借入の実施	30.8%
借入の予定	46.2%

◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移

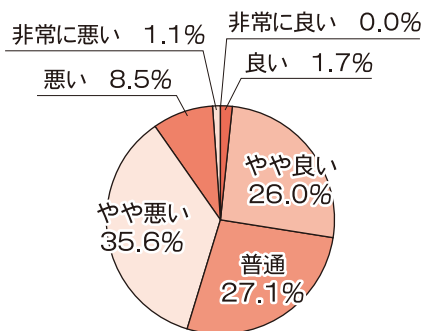




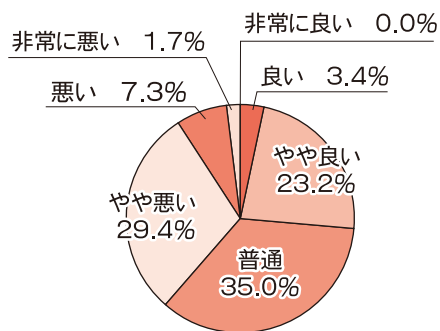
2022年(令和4年)の経営見通し

177社(無回答1社)に調査し回答をいただいたものです。

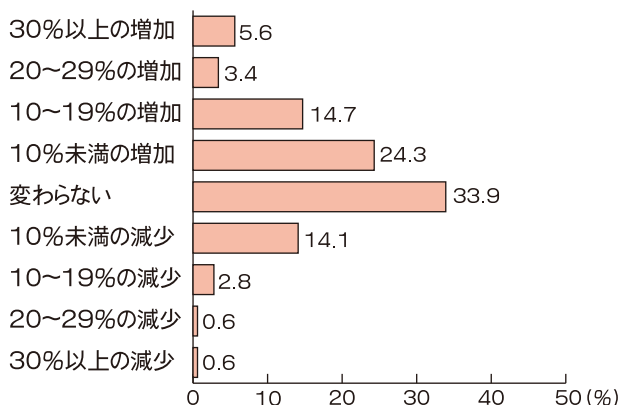
1 2022年の日本の景気をどのように見通していますか。



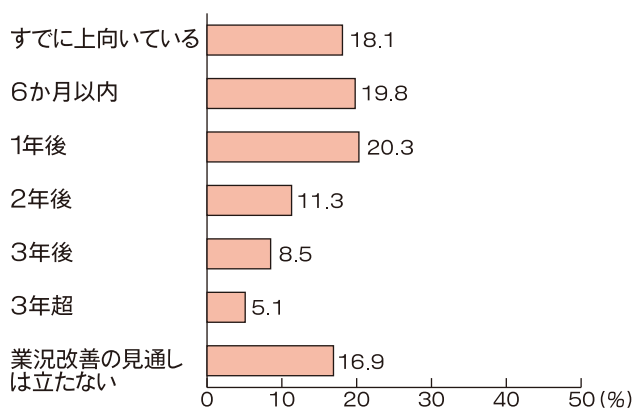
2 2022年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。



3 2022年において自社の売上額の伸び率は、2021年と比べておおそどのくらいになると見通していますか。

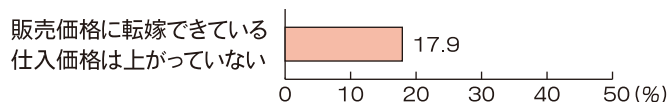


4 自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。



5 様々な分野で原材料・仕入価格の上昇が経営上の問題となっていますが、どのような対応を取っていますか。
(複数回答)

上昇分を販売価格に転嫁できている方
原材料・仕入価格が上がっていない方



上昇分を価格転嫁できていない方
仕入(調達)価格上昇への対応について
(複数回答)

